

## 『令和6年能登半島支援活動』活動報告書

2024年5月

認定 NPO 法人ピースプロジェクト

理事長 加藤 勉

平素は大変お世話になっております。

令和6年1月1日に発生した『令和6年能登半島地震災害』に対する支援活動に多大なるご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

当会としまして、1月2日に現地入り（富山市）、3日から珠洲市の避難所（若山小学校）で炊き出し支援活動を行いました。

ここに活動報告書として活動内容をご報告申し上げると同時に、改めてご支援、ご協力に対する感謝を申し上げます。

### 【概要】

2024年1月2日～5月6日

出勤回数（東京から珠洲市に足を運んで回数）12回

炊き出し提供回数 81回

炊き出し提供食数 14,008食

そのうち小学校への給食提供数 189食

支援物資を含む総受益者数 31,616人

### 〈活動当初〉

1月1日、

自宅で大きな地震を感知、テレビで『震度7』の情報を確認後、ピースプロジェクトメンバーとグループ Line を組み、人員の手配、レンタカー（ハイエース）の手配、スタッドレスタイヤの手配、被災地及び被災地への道路状況、等々の情報交換及び手配開始。

1月2日、

加藤と矢沢の2名で8時にニッポンレンタカーからハイエースをピックアップ、岩本町倉庫から器材積み込み、足立倉庫から器材積み込み、八潮のオートボックスでスタッドレスタイヤへの交換作業後、一路能登半島へ向けて移動開始。この時点で高速道路に通行不能箇所があったため、中央自動車道『松本インター』で降ろされて一般道で現地を目指すも、午後9時で富山にしか辿り着けず宿を取り宿泊。AARジャパン大原氏と合流。



1月3日、

朝8時半に東京を出発した青山と合流、近くのスーパーで食材の買い出し（牛丼の材料を買い求めるも、牛肉の在庫がゼロの為豚丼の食材を購入）。買い出し後、能登半島を目指して移動再開。

移動中も電話で現地の情報、道路状況の確認を行う。結果、珠洲市の大谷小中学校に矢沢の知人の知人が避難していると判明、一路『大谷小中学校』を目指すことに決定。

富山を出発して約10時間、能登半島の幹線道路である国道249号線を北上するも、至るところで倒木、土砂崩れ、道路陥没、亀裂、そして橋げたの浮上により通行止めが続き、迂回に続く迂回を繰り返す。いつパンク、バーストしてもおかしくない道路状況です。

珠洲市内に到着後、目指す大谷小中学校への道路がすべて通行止めになっていることが判明、地元の方の紹介で320人が避難している『若山小学校』に到着。この時午後9時過ぎ。

炊き出しの可否を尋ねるが、「自己責任でお願いします。」との回答だったので、「すべて自己責任で炊き出し行います。避難者の人数を教えてください。」との問いに、「この小学校に320人、この近くの避難所に100人いるので、400人分お願いします」との回答。

早速、準備を開始。プロパンガス、コンロ、炊飯器、発電機をセットして食材の調理を始めると、避難されておられる方数名から自発的に「お手伝いさせてください」と申し出ていただき調理開始。

豚丼の具材は300食しか無かったので、豚丼の量を調整しなんとか400食を用意し、提供し終わったのが深夜12時過ぎ、炊き出し作業が終了。道路状況から深夜の富山か高岡方面への帰途を断念し、そのまま車中泊とする。

1月4日、

車中泊、明けて朝から昼食炊き出しの準備作業、食材がほとんどなかったためメニューは『おにぎりとおにぎり』提供数は400食。

続いて夕食の提供準備を進める。地元の避難者からサツマイモの提供があったということで、『サツマイモご飯と味噌汁』、炊飯器で一回分を用意し、もう一度炊飯してもらい準備をして午後2時に若山小学校を離れて、この日の宿舎として確保した高岡市のホテルに向かう。

この日の帰途は恐ろしい渋滞、洲衛の交差点ではわずか100メートル進むのに“2時間”を要した。高岡のホテルに到着したのは午前12時。つまり10時間要した、途中トイレ休憩も食事を取ることも出来ないままの10時間は想像を絶する。ある程度パニックに近い状態であった。感情的な衝突も発生。

以上、活動当初





## 〈第1陣〉

活動第1陣は1月3日（水）～10日（水）の活動です。

1月2日に東京を出発し、10日までの第1陣では初期支援ということもあり、避難所である体育館にも人が溢れ、“非日常”というカオスの中で生活している人が多かったが、正月の“里帰り”で被災した人も多く、5日を過ぎるとあっという間に避難所の人が減っていくのが感じられました。

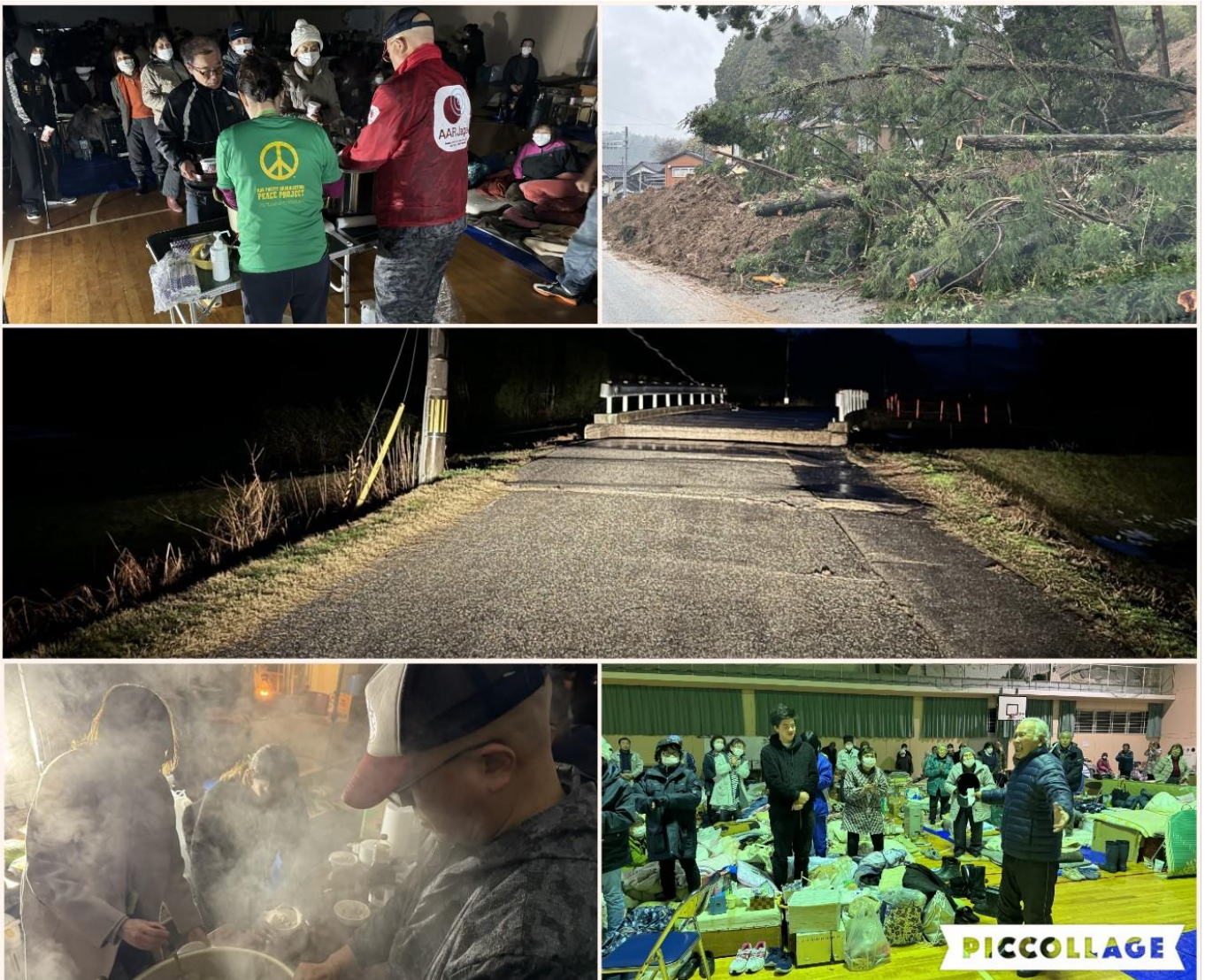
そんな中、1月10日の活動最終日に地元の最長老の方から私たちに「伝えたいことがある」と体育館の真ん中に集まるように指示がありました。

「何だろう」と直立していると、その長老（上田さん）から次のような言葉が発せられました。

「あなた方は、地震発生間もなく、この珠洲市まで足を運んで毎日炊き出しをしてくださいました。あなた方は私たちの命の恩人です。ここには地震で家を失くした人もたくさんいます。でもあなた方は私たちに勇気を与えてくれた。人も亡くなり辛い思いもしているけど、私たちはこう思います。“地震なんかになんか負けてたまるか！！”」

体育館で寝ていた人もいつの間にか全員立ち上がり、長老の言葉に涙流しながら温かい拍手が送られました。私たちも涙を流しながら、ただ「ありがとうございました」と頭をさげることしか出来ませんでした。

第1陣活動回数 10回、提供数 3,180食





## 〈第2陣〉

活動第2陣は1月17日（水）～20日（土）の活動です。

1月16日に東京を出発し、レンタカー（ハイエース）で珠洲市の若山小学校を目指しました。第1陣のような想像を絶する大渋滞ではありませんが、能登半島をつなぐ国道249号線は相変わらずの大渋滞です。東京を午後9時に出発して、珠洲市到着が朝の7時45分でした。

到着した時の気温はマイナス6度。息も凍るような寒さの中で準備を開始しました。

第1陣で地元で避難している女性陣ボランティア（通称『美女軍団』）に安定してお手伝いいただけるようになり、提供数が増えてもなんとかこなせるような体制になりました。

避難所入り口近くに毎日の提供メニューを貼りだしています。避難所にいる人にとって食事は大きな喜びです。「おっ今日はカレーか?」とか「昨日のご飯も美味しかったよ」とかけていただける言葉は私たちの活動の大きなモチベーションにもなります。

第2陣の宿泊先は志賀町のロッジです。90キロ強あります。朝は渋滞があるので4～5時間、帰りは3時間半かかります。昼食を提供するには6時にはロッジを出発する必要があります。夕食を提供してロッジに到着するのは早くても10時です。往復にかける時間が無駄なのと、活動が長時間にわたるので体力の消耗が激しい状態が続いています。

一方、避難所で暮らしている小学生数名が自発的に炊き出しのお手伝いをしてくれるようになりました。この中から1人でも将来『支援する側』にまわってくれたらと願うばかりです。

## 第2陣活動回数 6回、提供数 735食





### 〈第3陣〉

活動第3陣は1月28日（日）～31日（水）の活動です。

1月27日に西東京市でセミナーを終えて21時に東京を出発し、レンタカー（ハイエース）で羽咋市のスーパーマーケットを目指しました。珠洲市から100キロ近く離れているので到着も早く、午前4時にはスーパー到着し、開店を待ちながら休憩取りました。

食材は以前より豊富になり、避難生活で中々とりにくい野菜をたっぷり摂れるようにメニューを工夫するようになりました。

そして、今回からDIGグループ（鰻呼吸チーム）からプロの調理人が参加してくださるようになりました。ピースプロジェクトメンバーとはいえ、普段は仕事をしている人が多く、支援活動を維持継続するにはこういった専門家の参加がとても有効かつ提供する食事のグレードアップにつながります。

この時点で、行政からお弁当等の食事提供はゼロ、「ピースプロジェクトの炊き出しがない日はカップ麺ばかり食べてるよ」との声に、返す言葉が見つかりません。

小学校も授業が始まったけれど、「給食が出せないのでアルファ米と牛乳ですませています」という校長先生のお言葉に「給食も提供させてください」お願いして、今回から給食を提供することになりました。

今回も小学生が配膳のお手伝いをしてくれました。

### 第3陣活動回数 9回、提供数 735食（うち給食50食）





## 〈第4陣〉

活動第4陣は2月10日（土）～13日（火）の活動です。

前回の活動から学校給食の提供を始めました。始めるにあたり子どもたちに「何が食べたい？」と聞くと圧倒的に多かったのが『ホットドッグ』でした。次に『ハンバーグ』や『唐揚げ』といったメニューが望まれていました。と言うことで、今回の活動最終日にご希望の『ホットドッグ』を用意させていただきましたが、子どもたちは大喜びではしゃぎまくってくれました。ずっと好きなものを食べられなかったから気持ちわかります。中には「5本食べたよ！！」と報告に来てくれる“猛者”もいました。

今回 DIG グループで参加してくれた指原さんは、ピースプロジェクトのモットーでもある“ふれあい”を実践してくれました。今回ボランティアとして参加してくれた高校生ルタ君と2人で避難所となっている教室に入って、避難生活送っている人から苦労話や辛い思いをした話しを聞き出し、しっかりと寄り添ってくれました。

今回、参加してくれた高校生（卒業間際）のルタ君は「お父さんに言われて来てみたけれど、自分の目を見て、話しを聞いて報道されているのと全然違うことに驚いた」と言ってくれました。

今回も小学生が配膳のお手伝いをしてくれました。

### 第4陣活動回数 7回、提供数 686食（うち給食26食）





## 〈第5陣〉

活動第5陣は2月21日（水）～24日（土）の活動です。

第3陣から学校給食の提供をさせていただきましたが、第5陣の初日に小学校の授業を受け持たせていただきました。過日、校長先生に「先生、白玉粉があってぜんざいがあるんですが、子どもたちに体験授業みたいに白玉団子作りやってみませんか？」と投げかけたら、「ピースさんそれでは21日の5時限目を任せるので全校児童で白玉ぜんざい作りお願いします」と回答いただきました。

この日は子どもたちが嬉しそうに「白玉ぜんざい作るんでしょ？」と嬉しそうに話しかけてくれます。授業が始まって、団子づくりの方法を聞いている時は慎重にでも実際団子を作り始めると自由奔放な発想でドーナツ型やうんち型など思い思いの白玉を作っていきます。それをしっかり茹でて団子にしたら、温かいぜんざいに入れてワイワイ言いながら全員で美味しく食べていました。

そしてこの日の夜は、田中ケンさん率いる『チームアウトサイド』のメンバーがオーギービーフのバーベキューを作ってくれました。美味しくそうなビーフの焼ける匂いに避難所だけでなく近隣の方も駆けつけて、久しぶりの大行列となりました。やはり避難生活でビーフステーキはとても魅力的だそうです。

『チームアウトサイド』は翌日の昼には『ジョンソンヴィルソーセージ』を使ったホットドッグを提供してくれました。子どもたちは引き上げるチームアウトサイドに教室の窓からずっと手を振って別れを惜しんでくれていました。

第5陣活動回数 8回、提供数 681食（うち給食61食）





## 〈第6陣〉

活動第6陣は3月2日（土）～5日（火）の活動です。

第6陣の活動初日は雪の中で開始となりました。能登半島は1日に4季があると言われるほど天候が変わります。朝雪、昼雨、夜晴天その間に強風という具合です。

どんな天気でも炊き出し活動は外で行うことになっています。器材の洗いも外です。そんな我々のために地元の方が釜でお湯を沸かしてくださいます。このお湯がないとかじかんで包丁やまな板を洗えません。

今回の活動に RIZIN フェザー級チャンピオンの『鈴木千裕選手』が参加してくれました。しかも、ちゃんと野菜のカットや煮炊きという炊き出し活動にも参加してくれました。聞くと調理師の資格を持っているそうです。そんなチャンピオンの登場でにわかに避難所はざわざわしはじめました。

鈴木千裕選手は時間を見てミット打ちを披露したり、子どもも大人も自ら誘ってミット打ち体験させたり、終始和やかな雰囲気を演出してくれました。

また今回の活動には元修斗世界フライ級チャンピオンの生駒純司さんも参加してくれていて、一気に格闘技色の強い支援活動となりました。

3月4日（月）は前日がひな祭りと言うことでランチ、学校給食でちらし寿司を提供しました。

第6陣活動回数 10回、提供数 851食（うち給食52食）





## 〈第7陣〉

活動第7陣は3月12日（火）～15日（金）の活動です。

避難所に到着早々「おかえりなさい」と温かい声でお出迎えいただきました。聞くと、前回から今回の間に何も炊き出し的な提供はなかったそうです。避難所の人たちはアルファ米やカップ麺を食べて1日を過ごしていたと聞きました。

到着日は他の炊き出しが入っていて時間があつたので、津波被害の大きい宝立地区、寺家地区を視察に行ってきました。2か月半経ってもあの日のままの光景がそこにはありました。

活動中日の14日に卒業式がありました。15人しかいない児童のうち3人が卒業するそうです。ピースプロジェクトとしてもお祝いをさせていただこうと相談して、式典が終わり教室から帰る時にキャラクターグッズを全校児童にプレゼントさせていただきました。

ランチは『ホットドッグ』です。卒業式終わりで子どもたちは校舎の階段で友達と楽しそうに話しながら食べている光景が少し寂しそうでした。

今回の活動には以前参加してくれた高校卒業生のルタ君がお友達のレオ君を誘って参加してくれました。2人にとって良い経験になったと思います。

小学校のグラウンドには仮設住宅が急ピッチで建築されていました。児童が使えるグラウンドはなくなるそうです。

第7陣活動回数 7回、提供数 877食





## 〈第8陣〉

活動第8陣は3月27日（水）～29日（金）の活動です。

今回の活動、当初は4名で行うはずでしたが、2名の都合が悪くなり、急遽2名での活動となり暗雲が垂れ込めました。しかし、現地のボランティアさんから「東京から来た若者がボランティアやりたいので連れて行く」と言って27歳の若くて元気な青年を連れてきてくれました。

「3月20日から夕食としての弁当が支給されるようになった」と事前にきいており、炊き出しは必要とされるのか心配になりましたが、水を汲みに来られる人たちはいつもと変わらずに炊き出しを持って行ってくれます。

この時期、“花見”をテーマにして『ちらし寿司と花見団子』を提供しましたが、まだ若干桜を見るには早かったようです。

そんな28日、いつものように炊き出しの準備をしていると小学校の校長先生から「ピースさん少しいいですか？」と言われ、振り向くと校長先生と卒業生が写真の“感謝のバナー”を広げてこちらに向かっておられます。「4月で転勤になり、今日がこの学校最後の日なので卒業生と一緒に全校児童と教員で描いたこのバナーを渡そうと思っていたんです」とのこと。その場にいた全員が感激で涙流しくってしまいました。

活動最終日には炊飯器が故障して提供時間が遅れるというトラブルがありましたが、なんとか無事に活動を終わることが出来ました。小学校を卒業したこっちゃんが連日お手伝いしてくれています。

第8陣活動回数 6回、提供数 932食





## 〈第9陣〉

活動第9陣は4月5日（水）～7日（日）の活動です。

前回と同じく2名体制での活動スタートとなりました。今回ドタ参はありませんでした。

地元のボランティア『美女軍団』頼みとなった活動ですが、前回もお手伝いしてくれた新中学生のこっちゃんも土日にはお手伝いに来てくれています。将来のピースプロジェクトを託したいと勝手に考えています。

5日朝、自宅を出る時は陽気で暖かったのですが、珠洲市に到着するとジャンパーなしでは過ごせないほどの寒さでした。またこの日は入学式でした。たったひとりの新入生です。

活動2日目にはなんと、福岡県警のお巡りさんも炊き出しお手伝いしてくださいました。聞くと『生活支援部隊』だそうで、家の片付け等やれることは何でもやるそうです。

今回の活動の目玉は『サーティワンアイスクリーム』です。珠洲市の方に情報共有したところ「もの凄い行列が出来る」と困るので“おやつ炊き出し”としてLineに流します」とのことでした。

でも実際、キッチンカーが市内を走っている姿を見て「サーティワンがやってきた！！」とざわつき、小学校に到着するやいなや行列が出来るほどの人気ぶりでした。用意された100個はものの30分で完売しました。

第9陣活動回数 7回、提供数 870食





## 〈第10陣〉

活動第10陣は4月14日（日）～17日（水）の活動です。

2名体制が続いた活動ですが、今回は沖縄DIGグループから2名、岡山の李さん加えて総勢4名での活動となりました。人数もそうですが、DIGグループの2人はプロの料理人です。避難所にいる人からも小学校の校長先生からも「ピースさんの炊き出しはレベルが違う」と絶賛されています。

今回の活動は悲しいお知らせから始まりました。第1陣からお手伝いしてくれていた“さっちゃん”の旦那様が10日にお亡くなりになったと聞かされていました。そのさっちゃんと会った瞬間にハグして「大変だったね」と声をかけると「心配してくれてありがとう。でも大丈夫」との返事。

14日の夜に、美女軍団のひとり賀奈子さんのご自宅である正福寺で“花見”をするというのでお呼ばれしました。さっちゃんにも声をかけて一緒に行くことに。さっちゃんの旦那様がこのお寺に預けられているというので、最初にご挨拶してお花見モードに突入しました。さっちゃんは張っていた緊張が解けたみたいでお酒を美味しそうに飲んでいました。ピースプロジェクトのふれ合い支援活動はこういう場面でも役立つと思いました。

15日のランチに初めて『サンドイッチ』を作りましたが、10枚切りで作ったサンドイッチ1セットでは少し物足りない感じでした。次回以降気を付けます。

5月5日に行う『子どもまつり』の広報のため、全避難所と市役所を訪問、チラシ配布し、市長表敬訪問しました。

第10陣活動回数 7回、提供数 640食





## 〈第11陣〉

活動第11陣は4月21日（日）～24日（水）の活動です。

4名でスタートするはずが病気等で2名不参加、またもや2名でのスタートかと思いましたが、AARジャパンから2名参加していただき、万全の4名でスタートしました。日曜日はこっちゃん親子にも来てもらいました。

今回の提供メニューはネット等で少し研究して野菜を多く摂れる中華丼や炒めないチキンライス等新たなことにもチャレンジしました。

元パンクラスウェルター級チャンピオンの宇良健吾選手は小松在住で、仕事休みの月曜日にはいつもお手伝いに来てくれます。パワーも体力もたっぷりなので頼もしい助っ人です。

今回の目玉は『ラーメン香月』のラーメンです。事前にお店の方と入念に打ち合わせをして、ラーメン用の器具もお借りして、麺は1分茹でて伸びにくいモノを選択。太郎さんに茹でをお願いして、120食完売しました。皆さん、「久しぶりに美味しいラーメン食べた」と喜んでくださいました。

炊き出し終わりでホッとしていると「ピースさん体育館に来てください」とまたもやどこかで聞いたことのある呼びかけが、、体育館に行くと全校児童が整列しています。

児童2人が代表して「長い間、私たちのために美味しい炊き出しをありがとうございました」とお礼の言葉を言ってくれます。嬉しいサプライズに思わず涙してしまいました。次回の活動が連休にかかるので学校として会える最後の日にお礼がしたかったとのことでした。

第11陣活動回数 7回、提供数 580食





## 〈第12陣〉

活動第12陣は5月3日（金）～6日（月）の活動です。

『能登半島支援活動』最後の活動となる第12陣です。活動のメインは5日に行う『子どもまつり』です。その為に東京、熊本、岡山と全国から仲間が駆けつけてくれました。3日は夕食『肉野菜炒め弁当』、4日には全鯉のぼりを体育館に大きき順に並べて掲揚作業の準備、珠洲市で活動していた『チームエース』が高所作業車を持ってきてくれて、打ち合わせ通りにポールを組んで次々に鯉のぼりを掲揚していきます。午後4時には200匹の鯉のぼりが小学校を飾ってくれました。あとは翌日の晴天を祈るばかりです。

5月5日、晴天でした！！暑いほどの日差しが降り注ぎます。9時過ぎには多くの子どもたちが行列を作ります。ピースプロジェクトのボランティア51名、地元ボランティア23名総勢74名で『子どもまつり2024 in 珠洲市』開幕です。地元の方から「こんなに人の集まるイベントは見たことがない」と言ってもらえるほどの人が集まりました。サーティワンアイスクリームケーキ、焼きそば、ジョンソンヴィルソーセージ、かき氷、ダンダダン餃子といった提供物、ふわふわ遊具、スーパーボールすくい、バルーンアート、投げ輪、ビンゴゲームといったアトラクション、スペシャルゲストの鈴木千裕選手、どれも長蛇の列です。そして笑顔が溢れています。

1月1日の震災後、誰がこんな笑顔溢れるイベントを想像したでしょう。珠洲市の、能登半島の未来はこの子どもたちの笑顔に託されていることは間違いありません。

活動終えて帰途につく際、さっちゃんはじめ地元の方とのお別れは後ろ髪惹かれる思いでした。

**第12陣活動回数 7回、提供数 2,844食**





## 【最後に】

1月2日に始まった今回の『能登半島支援活動』、長期にわたりご支援くださった皆様、ご寄付をいただいた皆様、ボランティアとしてご参加いただいた皆様、メッセージ等で応援していただいている皆様、本当にありがとうございました。

5月6日で一旦活動の区切りとしますが、現地の状況は大きく変わっている訳ではありません。

まだまだ助けを必要とされていらっしゃる方が大勢いらっしゃいます。

ピースプロジェクトは“子ども支援”の立場から次に出来ることをしていきます。

その第1弾が『軽井沢サマーキャンプ』です。

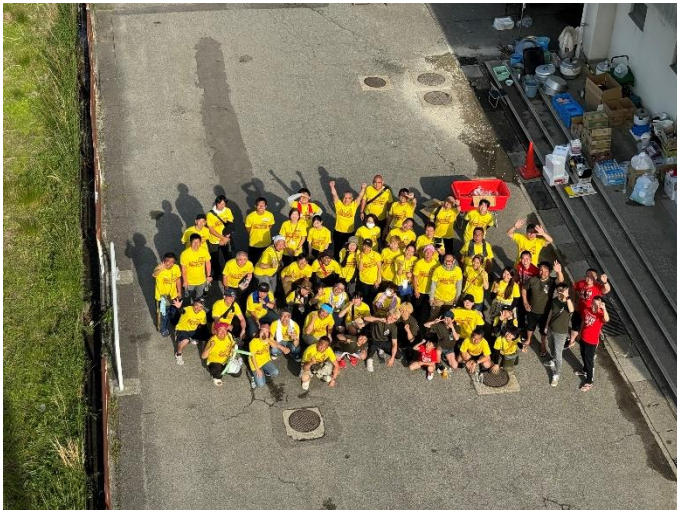
8月6日～8日にかけて、珠洲市の子どもたちを北軽井沢の『アウトサイドベース』というキャンプ場に招待して自然と親しむキャンプを経験してもらいます。

震災、災害はいつどこで起きるかわかりません。

『明日は我が身』です。

私たちは、活動を通じて支援された子どもたちが将来“支援する側”に戻ってきてくれると信じています。

そのためにも、今後も引き続きピースプロジェクトの活動をご支援賜りますようお願い申し上げます。



子どもまつりの動画は下記のQRコードからご覧いただけます。



以下余白